

[第 2 号報告]

2-1. 2021 年度事業計画書

1. 概況
2. 会員数について
3. 会議等に関する事項
4. 実施事業 1：一般社団法人化
5. 実施事業 2：コロナ対策（学生企画）
6. 実施事業 3：DB 関連シラバス調査
7. 実施事業 4：最強データベース講義プロジェクト
8. 実施事業 5：データ作法（セミナー等）
9. 実施事業 6：DEIM
10. 実施事業 7：企画
11. 実施事業 8：産学連携推進
12. 実施事業 9：論文誌編集
13. 実施事業 10：表彰
14. 実施事業 11：情報システム
15. 実施事業 12：電子広報編集
16. 実施事業 13：ダイバーシティ推進

2021 年度事業計画書

1. 概況

当法人は、前身である任意団体日本データベース学会の事業を切れ目なく引き継ぐと共に、定款第3条に定める「データ、データベースならびにデータ高度応用・システムを主軸とした科学・技術の振興と人材の育成を図り、国内外のデータベース関連学術団体と連携しつつ、フットワーク軽く、産学連携、国際的協調、新領域開拓を先導し、学術、文化、産業、ならびに社会の発展に寄与すること」を目的として活動を進める。

2021 年度は、一般社団法人日本データベース学会としての事業を行う初年度となるため、任意団体における事業を継続しつつ、本会の目的にそって定款第4条第1項に定める事業を滞りなく行っていく。特に、同事業を行うにあたり、現時点で整備が十分ではない規程や内規の制定を進めると共に、現在の各々の事業について、本会の目的に沿って見直しを行っていく。また、国内外のデータベース関連学術団体との間で協定の締結を進め、連携を深めていく。

具体的には、下記に示す重点活動項目の活動を通じて学術、文化、産業、ならびに社会の発展に寄与する。

2. 会員数について

2021 年 4 月 1 日時点で会員数は 41 名であった。

これは、2021 年 3 月 18 日に開催した第 1 回理事会の決議により、現理事及び監事は 4 月 1 日時点で一般社団法人日本データベース学会正会員あるいは維持会員となるように会員の移行を進めた結果である。

その後、日本データベース学会の全会員に対し移行意志の確認を進め、移行意志を確認できた者を会員とした結果、2021 年 6 月 24 日 16 時時点の会員数は、以下の通りとなっている。

正会員	484 名
学生会員	74 名
維持会員	21 社

今後もセミナーやフォーラムの機会を通じて、会員増加に努めていく。

3. 会議等に関する事項

下記の会議を計画する。遠隔会議システム等を利用し効率的な運用に努める。

3.1 2021 年度 定時総会

2021 年 6 月 24 日(木)にオンラインで開催する。

3.2 理事会および各種委員会

理事会および各種委員会はオンライン開催を基本とし、理事会は年度内に 6 回以上開催し、学会活動に関する諸事項を審議する。また、各種委員会は必要に応じて開催し、諸活動における諸事項を審議する。

4. 実施事業 1：一般社団法人としての活動の整理（定款第 4 条第 1 項 8 号）

4.1 関連学会との協定締結の推進

電子情報通信学会、情報処理学会、海外の学会等との関係について、協定締結を通して関係構築を進めていく。

4.2 代表会員選挙制度の策定

本会では代議制をとっており、2022 年 3 月末までに 2022 年度の代表会員（社員）の選挙を実施する。定款第 6 条第 2 項に記載の通り、概ね正会員及び維持会員総数の 1/30 を代表会員（社員）とすることとする。

4.3 会費制度の検討

現在、電子情報通信学会データ工学研究専門委員会及び情報処理学会データベースシステム研究会の会員について会費を無料としているが、4.1 で進める関連学会との関係整理にあわせ、新たな会員制度の検討を行っていく。

4.4 本会活動の継続的検討

一般社団法人日本データベース学会として、本会の活動全体を定款第 4 条第 1 項の各号の内容にそって、継続的に見直しを進めていく。

5. 実施事業2：コロナ対策（学生企画）（定款第4条第1項4号）

本事業の目的は、コロナで困難な状況にある学生を支援することである。いわゆる一般的な支援ではなく、DBSJとして、学生が成長できる活動の機会を提供する。学生自身が興味を持てる企画を自ら立案し、実行する。

委員長：橋本隆子、副委員長：中島伸介、委員：塩川浩昭

学生（運営）：清水洸希（東大）、真次彰平（筑波大）、加藤郁之（京大）、高木駿（京大）、田中涼太郎（京都産業大）、田澤彩紀（千葉商科大）

【活動概要】

- (1) 学生によるライブ配信プロジェクト「学生企画：***を***教授に聞く！」(例)
 - ① 「アフターコロナ（With コロナ）」を始めとするさまざまな話題について、学生とDBSJ内の重鎮、若手の研究者・技術者が熱く議論する
 - ② 7月2日：産総研、金京淑さん 登壇
 - ③ その他、学生のアイディアで企画を検討予定
- (2) コロナ禍の中で学生支援として、アルバイトという形で学生支援を行う。

6. 実施事業3：DB関連シラバス調査（定款第4条第1項8号）

本事業の目的は、日本の大学におけるDB教育の実態を調査し、DBSJとして貢献できる部分があるかなどを考えることである。今年度は、DEIMに参加している大学を皮切りに、DBに関連するシラバスの状況を調査し、現状を理解するとともに、今後の活動計画を明確化する。

委員：橋本隆子、梅本和俊、中島伸介

【活動概要】

- (1) 大学のDBに関連する講義（シラバス）の調査
 - ① まずはDEIMに参加している74大学から調査開始（済）
 - ② シラバスリストの評価
 - ③ 評価結果によって、今後のさらなる調査を実施
- (2) シラバスリストの作成には、学生アルバイトを活用

7. 実施事業4：最強データベース講義プロジェクト（定款第4条第1項1号 および第7号）

本事業の目的は、DB 関連分野の各項目について、その道の第一人者ならではの「面白く」「わかりやすい」講義コンテンツを提供し、大学の枠を超えた最強のデータベース講義コンテンツライブラリを構築する事である。

委員長：森嶋厚行、副委員長：渡辺知恵美

【活動概要】

- (1) 基本方針：コンテンツの定期的な追加とコンテンツ活用の推進
- (2) 具体内容
 - ① 講義コンテンツの作成と配信
 - ② 講義コンテンツ活用に向けた広報や調査
 - ③ タグ付けや講義間の関係などの整備
 - ④ コンテンツを利用した勉強会等派生イベントの検討

8. 実施事業5：データ作法（セミナー等）（定款第4条第1項1号および5号）

本事業の目的は、セミナーを通じて、研究者や技術者がデータに関する法律を熟知し、法律に準拠したデータの取り扱いやデータを活用した研究開発の推進を支援することである。

委員長：木俣豊、委員：柿沼太一、上田真由美、榎美紀、平手勇宇

【活動概要】

「私達は法に準拠してデータをどうやって集めてどのように使えばよいのか？」という研究者や技術者の疑問を解消するためのセミナーを 2019 年度から開催しており、2020 年度はデータ利活用時の法的課題をテーマに基づいてオンラインで 3 回の無料セミナーを開催している。2021 年度においても最新のデータに関する政策などを対象とした法律の専門家による法的な話題の講演に加えて、企業などからの実践的な課題に対する講演、さらには参加者を交えた深掘りの議論するためのパネルディスカッションで構成されるセミナーを複数回開催する予定である。

9. 実施事業6：DEIM（定款第4条第1項1号）

本事業の目的は、DBコミュニティの活性化及び拡大化のための中核をなすイベントとすることである。2021年度はコロナ禍においてDEIM2021はハイブリッドかを進めると共に、コミュニティの活性化をはかる。

委員長：灘本明代、委員：宮崎純、吉田尚史、小口正人、合田和生、櫻井一貴、平手勇宇
DEM2022 幹事団：吉田尚史、的野晃整、鈴木優

【活動概要】

短期的計画（2022年開催）と長期的計画（定常的な流れ）の2段階に分けてDEIMのあり方について検討していく。

(1) DEIM2021からの変更項目

- ① DEIM2021は現地とオンラインのハイブリッドでの開催を目指していたが、新型コロナウイルスの感染急増を受け、オンライン開催を行った。
- ② 財源をDE研からDBSJに移行
- ③ 主催はこれまで通りDBSJ、DE研、DBS研3団体
- ④ 聴講参加費無料、また発表者（希望学生3名）への参加費補助を行った
- ⑤ 参加者が聴講者を含め、初めて1000人越

(2) DEIM2022トピック

- ① 「ネット利用も可能にし、3密を避けた学会運営」を目指す。
- ② 現地とオンラインのハイブリッドを予定

10. 実施事業7：企画（定款第4条第1項1号）

本事業の目的は、DBコミュニティのメンバー間の情報交換・情報共有を促進するため、様々な形態のイベントを実施することである。2021年度は、社会状況とイベントの規模等を勘案して、現地とオンラインのハイブリッド開催またはオンライン開催とする。

委員長：小口正人、副委員長：角谷和俊

【活動概要】

- (1) 第12回ソーシャルコンピューティングシンポジウム
The 12th Social Computing Symposium (SoC 2021)
日時：2021年7月24日（土）

場所： 神奈川工科大学 IT エクステンションセンター(ハイブリッド開催)

主催：日本データベース学会 (DBSJ)

電子情報通信学会 データ工学研究専門委員会

ACM SIGMOD-J

協賛：情報処理学会 データベースシステム研究会

ARG Web インテリジェンスとインタラクション研究会

招待講演：2 件

一般講演：12 件

実行委員長：鷹野 孝典（神奈川工大）

(2) 第 39 回 先端的データベースと Web 技術動向講演会

(ACM SIGMOD 日本支部第 76 回支部大会)

日時：2021 年 7 月 24 日（土）

場所：神奈川工科大学 IT エクステンションセンター(ハイブリッド開催)

(3) Web とデータベースに関するフォーラム (WebDB Forum)

WebDB サマールワークショップとしてリニューアル

日時：2021 年 9 月 16 日（木）～17 日（金）

場所：オンライン開催

(4) Korea-Japan (Japan-Korea) Database Workshop (KJDB)

10～11 月頃開催、今年度は未定

1 1. 実施事業 8：産学連携推進（定款第 4 条第 1 項 3 号）

本事業の目的は、アカデミアとインダストリアルの間における技術的なないしは人的な交流を促進することで、産業全体の発展を目指すことにある。本年度も引き続きインダストリアルからプロダクトやデータを提供し、それらを活用頂くプログラムやイベントを開催、それらの場を通じた交流を図る。

委員長：櫻井一貴（リクルート）、副委員長：小口正人（お茶の水女子大）、

委員：榎 美紀（日本 IBM）、倉林 修一（Cygames）、下道 高志（日本オラクル）、

白石 雅己（日本電気）、高橋翼（LINE）、武中隆宏（富士通）、西岡秀一（NTT）、

浪岡保男（東芝）、平手勇宇（楽天）、藤原真二（日立）

【活動概要】

(1) プロダクト提供型アカデミック支援プログラム

下記プロダクト活用を通じた研究を支援すると共に、研究を通じて人的交流も図る。

- ① 日立：uCSDP (uCosminexus Stream Data Platform)
- ② 東芝デジタルソリューションズ：GridDB
- (2) DBSJ Data Challenge (データ提供型アカデミック支援プログラム)
2021 年度からは当該プログラム名は廃し、NII IDR が主催する「IDR ユーザフォーラム」に完全統合する (2021/11～12 月頃の開催予定)。同フォーラムを DBSJ として後援 (DBSJ 特別賞を設置。副賞として同年度の DEIM に招待するなど)、DBSJ 維持会員以外の企業との交流も図る。その他、with コロナ時代ならではの産学連携・交流の在り方や進化形を模索する。

1 2. 実施事業 9：論文誌編集 (定款第 4 条第 1 項 2 号)

本事業の目的は、論文誌の発行を通じて、データベース、メディアコンテンツ、情報マネジメント、ソーシャルコンピューティングに関する科学・技術の振興を図り、もって学術、文化、ならびに産業の発展に寄与するという本学会の目的に貢献することである。

委員長：横田治夫、石川佳治、副委員長：小杉尚子、編集幹事：張建偉、義久智樹

【活動概要】

日本データベース学会論文誌 (和文・英文) の発行に加え、新たな切り口での新しい論文の企画と立ち上げを行う。

- (1) 日本データベース学会論文誌 (和文・英文) の発行
 - ① 自由投稿および DEIM 2021 からの推薦論文を対象
 - ② 和文論文誌 (Vol. 20-J) と英文論文誌 (Vol. 20) の発行
 - ③ 論文賞の選定
- (2) 新たな論文誌の企画・立ち上げ
 - ① 既存の和文・英文論文誌とは別個の新たな切り口での論文誌
 - ② データ駆動型のアプローチに基づく研究開発を主軸とする幅広いトピック
 - ③ 新規性よりもインパクト (有用性) を重視：新たな査読基準の策定

1 3. 実施事業 10：表彰 (定款第 4 条第 1 項 8 号)

本事業では、功労賞、若手功績賞、上林奨励賞、業績賞を選定し、表彰を行う。

委員長：中野美由紀、(委員は非公開)

【活動概要】

2021 年度表彰として、例年通り功労賞、若手功績賞、上林奨励賞、業績賞を選定し、表彰を行う。

1 4．実施事業 1 1：情報システム（定款第 4 条第 1 項 6 号）

本事業の目的は、会員データベースシステム、会員メーリングリスト dbjapan 等の情報システムに加えて、本会ホームページ、本会 Facebook などの電子広報用のシステムやサービスの安定運用と維持管理を行い、本会の運営をサポートすることである。2021 年度は、一般社団法人化に対応するため、会員データベースシステムの再設計・構築を行い、より安定的な運用をはかる。

委員長：宮崎純、委員：梅本和俊、大塚真吾、吉田尚史、横山昌平、若宮翔子、鈴木優、アドバイザー：国島丈生

【活動概要】

- (1) 会員システムの改修・再設計
 - ① 一般社団化に向けた現行会員システムの一部改修
 - ② 会員システムの再設計・構築
 - ③ 専用システムから汎用ソフト・クラウドサービス利用への転換
 - ④ セキュリティ対策
- (2) Web・会員 DB の運用・維持
 - ① 会員システムの安定運用
 - ② 各種メディアを利用した広報

1 5．実施事業 1 2：電子広報編集（定款第 4 条第 1 項 2 号）

本事業の目的は、国内外の DB 関連技術の研究動向および DB コミュニティの活動動向を電子的に広報することである。

委員長：佐藤哲、委員：小山聡、宮森恒、国島丈生、藤原靖宏、北山大輔

【活動概要】

2021 年度は、以下の Newsletter の定期刊行を行う。

- ① Vol. 14、No. 1～8

- ② 定期(隔月)6号、企画2号発行を計画

企画①：DBSJ 各賞 受賞者の声

企画②：若手研究者の声

16. 実施事業 13：ダイバーシティ推進（定款第4条第1項4号および8号）

本事業の目的は、DBSJ 内のダイバーシティ & インクルージョンを推進し、ハラスメントを防止するための活動を通して、DBSJ に関わる全ての人の基本的人権および尊厳を守り、各自が安心して快適に学会活動に従事できるようにすることである。今年度は、ダイバーシティ推進のための各種活動の支援・展開、さらに DEIM を中心とした学会におけるハラスメント防止などの活動を実施する。

【活動概要】

- (1) ダイバーシティ推進事業

委員長：橋本隆子、委員：上田真由美、佐々木史織

- ① 後援予定：IEEE WIE 2021 他
- ② Web サイト上での広報活動の強化
- ③ 男女共同参画関連の新たな活動の検討（学生企画との連携など）
- ④ 学会における託児設備など

- (2) ハラスメント防止委員会

委員長：橋本隆子、委員：若宮翔子、梅本和俊、灘本明代、中野美由紀、木俣豊、
アドバイザー：小口正人

- ① Web サイト上での広報活動
- ② DEIM などでの啓蒙活動